

## 令和 3 年度 学校関係者評価報告書

大阪市立加美北小学校 学校協議会

## 1 総括についての評価

1 月実施の学校アンケートは、コロナ禍のため不安等で欠席する児童も多く、回収率がいつもより低くなったが、その中でも課題点を分析し、学習活動に配慮しながら、個々の良さが引き出せるように努力してほしい。昨年度に引き続きコロナ禍の状況であったが 6 年生は、ほぼ標準化得点まで向上した。他学年の学力向上に力点をおいて取り組んでほしい。そのためには学習に向き合う姿勢を身につけることに心がけてほしい。

新年度に向けて、改善点を明らかにし、取組をすすめることが必要である。

## 2 年度目標（全市共通・学校園）ごとの評価

年度目標：子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現

- ① 年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて解消した割合を 95%以上にする。
  - ② 小学校学力経年調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える児童の割合を 85%以上にする。
  - ③ 年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童数 0 を継続する。
  - ④ 年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童の割合を前年度より減少させる。(R2:1.18%)
  - ⑤ 令和 3 年度末の小学校学力経年調査・学校生活アンケートで「自分にはよいところがある」「学校のきまりを守っている」の質問に肯定的な回答をする児童の割合を 80%以上、85%以上を目指す。
- ① 学校独自で毎月実施している「いじめについてのアンケート」で認知した事案については、担任や学年団が双方に必ず聞き取りを行い、解決を図ってきた。必要に応じて、保護者に経緯を説明し、連携した取り組みを行ってきた。また、事後 3 カ月間、経過も観察している。2 月末時点では 100%解消している。
  - ② 学校アンケートでは 77%の児童が「ろうかを歩いている」、84%の児童が「階段をあるいている」と回答しており、目標の 85%には届かなかった。しかし、経年調査の「学校のきまりを守っていますか。」の項目では 88.8%の児童が守っていると回答している。「廊下・階段の安全歩行」については、様々な手だてを考え、児童の意識を高めていく。
  - ③ 暴力行為を複数回行った児童は、今年度もいなかった。
  - ④ 新たに 30 日以上欠席し、不登校に該当する児童の割合が、昨年度は 1.18%で今年度は 1.24%で増加している。コロナ不安から精神的に不安定になっている傾向が窺える。
  - ⑤ 「自分にはよいところがあると思いますか」の質問に、肯定的な回答をする児童が、経年調査では 83%、学校アンケートでは 79%とであった。全校で取り組んでいる「Happy Card」の活用の仕方については、学級間で差があり、よい取組を共有していく。次年度も児童が活躍できる場の多く設定し、自己有用感の向上を目指していく。

年度目標：心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上

- ① 本年度の小学校学力経年調査における標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。
- ② 本年度の小学校学力経年調査における正答率が市平均の 7 割に満たない児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 2 ポイント減少させる。
- ③ 本年度の小学校学力経年調査における正答率が市平均 2 割以上上回る児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 2 ポイント増加させる。
- ④ 本年度の小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、目標値の 75%にする。(R2：63%)
- ⑤ 本年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、「運動やスポーツをすることが好きである」と肯定的な回答をする児童を男子 87%、女子 74%以上にする。
- ⑥ 年度末の学校生活アンケートで「宿題は必ずしている」「宿題以外の家庭学習をしている」の割合をともに 80%以上にする。
- ⑦ 学校アンケート調査で「読書をするのが好きである」に肯定的な回答をする児童の割合を R2 年度（76%）以上にする。
- ⑧ 学校アンケート調査で「外で遊ぶ（運動する）のが好きである」に肯定的な回答をする児童の割合を R2 年度（78%）以上にする。

- ① 学力経年調査の標準化得点を前年度と比較すると、4 年生－2.3 ポイント、5 年生－1.6 ポイント、6 年生 3.7 ポイントと 6 年生だけが上回った。
- ② 正答率 7 割以下の児童を同一母集団で比較すると、昨年度より 1.4 ポイント減少しており、目標は達成できた。
- ③ 正答率市平均の 2 割以上の児童を同一母集団で比較すると、昨年度より 0.6 ポイント減少しており、目標を達成することはできなかった。
- ④ 「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。」児童は前年度 63.0%、本年度 82.1%と向上することができた。研究教科（国語科）を通して、意識的に話し合い活動を取り入れた授業等の実践が実っている。今後も対話的で深い学びを意識した授業力の向上を図っていきたい。
- ⑤ 全国体力・運動能力、運動習慣等調査における「運動やスポーツをすることが好きである」と肯定的な回答をする児童は、（男子 92.6%、女 65.4%）79.0%で男子は大きく向上したが、女子が大きく下回った。
- ⑥ 年度末の学校生活アンケートで「宿題は必ずしている」は 93%、「宿題以外の家庭学習をしている」は 73%で前年度より上回っているが、自学自習のあり方について検討していく必要はある。
- ⑦ 学校アンケート調査で「読書をするのが好きである」に肯定的な回答をする児童の割合は、75%で昨年度の 76%を上回ることができなかった。集団貸出や学校図書館開放のあり方を検討していきたい。
- ⑧ 学校アンケート調査で「外で遊ぶ（運動する）のが好きである」に肯定的な回答をする児童は 78%で昨年度と同じであった。新しい遊び道具やダンスタイムの導入等に取り組んだが、コロナ禍の状況でもあり、心情面で思い切って遊べていないことが窺える。休み時間を長くすることや運動器具の設置等を検討していく。

### 3 今後の学校園の運営についての意見

- コロナ禍が今後も続くと思われるが、感染症の予防を考え、学校運営を行ってほしい。今回は、6年生の学力が向上したが、どのような取り組みが成果につながったのかしっかりと分析し、取り組んでほしい。
- 次年度は、創立50周年を迎える。地域と学校とが連携し、より開かれた学校づくりを目指してほしい。
- 今後も毎月「いじめについてのアンケート」実施し、早期発見、早期解決の取り組みを継続して行っていくことが大事である。